

2013年1月7日

昭和電線ホールディングス株式会社

あけましておめでとうございます。

昨年を振り返ってみますと、いわゆる6重苦が産業界を覆い、更には中国や韓国との領土問題による険悪な状況も生じ、先行きに明るさの見えない年であったと言えます。しかしながら、年末になって、経済政策を最優先とした政治的な動きが明確になり、今までよりも事業環境が好転する期待が持てるようになりました。

年始に当たり当社グループとして、今年の間組むべき課題、進むべき方向性について、3点申し上げます。

最初に、この1月～3月は今年度の第4四半期であり、足元の業績回復に全力を尽くさなければならないことは言うまでもありません。

2点目は、来年度に向けての間組姿勢です。それぞれの事業において確実に利益を創出するための明確な目標を立て、意欲的な数値を目指し、利益創出に積極的に挑む企業グループに変化しなければなりません。そのためには、当社グループのそれぞれの事業が置かれている現状を分析、把握した上で個人が何としても利益を多く創出するという強い意思を持ち、環境に対応する具体的な行動を起こして下さい。ただ待っているという姿勢では何も生まれません。積極的に注文を取りに行く、市場を開拓するといった行動が必要です。

3点目は、現在取り組んでいただいている中期経営計画「GROWTH 2014」で掲げた重点施策 1) 海外事業での利益創出 2) 国内基盤事業の強化 3) 環境配慮型製品の開発加速 について、今年はその成果を形にする年と位置づけて下さい。現在、国内外の各事業分野で取り組んでいる設備投資や各種プロジェクト、また、超電導や熱電発電システムなどの環境配慮型製品の開発は、その成果を確実に実のあるものにしていかなければなりません。業績向上に向けたチャレンジの年と位置づけ、企業体質をより強固にしていくスタートの年として下さい。

最後になりますが、今年は無災害を目指すとともに、皆様にとっても当社グループにとっても良い年となるよう、気持ちを明るく前向きに進んでいきましょう。

昭和電線ホールディングス株式会社

取締役社長 相原 雅憲

この件に関するお問合せ先

経営企画部 IR・広報グループ 菅井 幹夫 TEL 03-5404-6951